

No.478
2023年
11月2日
(月)

つくしんぼ

11月号
(霜月)
文責：瀧口

11月です。学習発表会のシーズンですね。ことばの教室に通ってきている子ども達にとって、不安になりやすい学校行事です。そんななか、通級している児童の担任の先生方は、役の希望を聞いてくださったり、せりふが言いやすい音で始まるか、チェックしてくださったりしていました。ありがとうございます。



先輩のお話を聞こう



10月下旬、吃音のある児童を対象に「先輩のお話を聞く会」を開きました。先輩は、小学校時代「ことばの教室」に通っていた方です。アイスブレイクのゲームの後、先輩には経験や思っていることとお話しいただきました。低学年の児童には少し難しかったかもしれませんが、みんな真剣に聞いていました。高学年の児童には心に残るものがあったようです。中学生になると「ことばの教室」はありません。自分で吃音とのつきあい方、将来を考えていなくてはなりません。そんな時、家族以外にも仲間がいることは『お守り』になるのではないかと思います、この会を企画しました。



～お話から～



- 「吃音が出たら、いやだな。はずかしいな。」と思うかもしれない。でも、落ち込まないで『次どうやったらうまく話せるか』研究してみてください。ぼくの魔法のことば（はじめの音を出やすくすることば）は、心の中で言う「えっと」です。みんなにもそれぞれあると思うから、探してみてくださいね。
- 吃音があるからって『自分はダメ』なんて、絶対思っちゃダメ！ばかにしてくる人がいたら関わらない。話し方をまねされても、そんなことをする人は放っておいたらいい。『何が善いことで悪いことか』しっかり考えて、善いことをしていれば、周りによい友達が集まってくるからね！

～感想～



友達になれて、うれしかった。ぼくの魔法のことばは「あのね」なんだよ。



話し方をまねされた時の対処の仕方が勉強になりました。みんなが笑顔で話してくれて、嬉しかったです。

どの子もいろいろな困り感を抱えながらも、元気に明るく過ごしている姿を見て、私も元気をもらいました。（先輩より）



吃音を知る絵本

「うましくしゃべれない
ぼくは、へん？」

北海道吃音・失語症ネットワーク

「小学生のうちから吃音を知る機会をつくる」目的で作られた絵本です。YouTubeで検索すると読み聞かせを視聴することができます。「きつどももっちゃうけど、それでもいいや。ぼくは、ぼく。きつとだいじょうぶ。」みんながそう言えるようになるまでに必要なのは、周囲の理解、応援です。吃音について正しく知り、「ひとりじゃないよ」と味方になってくれる子ども達や「相談していいんだよ」と伝えられる大人達が増えるよう啓発活動を続けていきます。

かぜひき
おくすり
びょういん
ねこんだ
せきこむ
はらいた
すつうは
ねつでた
さむけが
かぜひき

じつぴき
きゆうひき
はつぴき
ななひき
ろつぴき
ごひき
よんひき
さんびき
にひき
いっぴき

あべこべ

